

崇仁のまちづくり 10年の軌跡



崇仁まちづくり推進委員会
NPO法人崇仁まちづくりの会

ごあいさつ



平素は崇仁まちづくり推進委員会の活動に格別の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、来年7月1日をもって、崇仁まちづくり推進委員会は10周年を迎えます。平成8年の創設以来、当委員会は京都市や住民の方々とのパートナーシップの下で、人々が幸せに暮らすことができるまちを造るために、「みんなが主役のまちづくり」の合言葉の下で、住宅や公共施設、河川、道路の整備から、春まつり、夏まつり、秋の文化祭などの各種イベントまで、ハード面とソフト面の両方からまちづくりに全力を尽くして参りました。

この度、10周年という節目を迎えるに当たり、改めて皆様に崇仁のまちづくりについて御理解いただき、今後とも皆様と御一緒にまちづくりに貢献していきたいという思いから、この冊子を作成いたしました。今後とも崇仁の素晴らしい未来のために、当委員会は邁進して参りますので、皆様の変わらぬ御支援と御協力をよろしくお願い申し上げます。

崇仁まちづくり推進委員会 会長
NPO法人崇仁まちづくりの会 理事長 奥田 正治



「崇仁まちづくり推進委員会」が、設立10周年を迎えられますことを心からお祝い申し上げます。皆様のこれまでのまちづくりへの熱い思いと10年間に及ぶたゆまぬ御努力に對しまして、深く敬意を表します。

文化市民局では、地元の皆様と徹底した論議、検討を重ねて参りました、交流とコミュニティ活動や保健・医療・福祉サービスの拠点となる「崇仁交流ゾーン合築施設」の一刻も早い完成に努めているところであります。

今後とも、「崇仁まちづくり推進委員会」の皆様と行政が共にまちづくりに取り組んできた「10年の軌跡」をステップとして、更なるパートナーシップの下に、人権文化が息づく崇仁のまちづくりに全力で取り組んで参りますので、より一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

京都市文化市民局長 柴田 重徳



「崇仁まちづくり推進委員会」が、結成10周年目という大きな節目を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

「崇仁まちづくり推進委員会」は、平成8年7月に設立され、今日まで「みんなが主役のまちづくり」を合言葉に住民自らの手でまちづくりを進めてこられました。この活動は、高瀬川の流路変更や4棟の建設など大きな成果に結びついたところであり、深く敬意を表する次第です。

本市と致しましては、住民の皆様熱い思いをしっかりと受け止め、皆様とのパートナーシップの下、崇仁地区のまちづくりの早期実現に努めて参りますので、より一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

結びに、「崇仁まちづくり推進委員会」が今後ますます発展されますこと、並びに皆様の御健勝と御多幸を心から祈念申し上げます。

京都市都市計画局住宅室長 木村 茂和



「崇仁まちづくり推進委員会」の設立10周年を、心からお祝い申し上げます。

「崇仁まちづくり推進委員会」におかれましては、設立以来一貫して「みんなが主役のまちづくり」に取り組まれ、多くの成果を残して来られました。特に近年では、国の支援事業「都市再生モデル調査」の指定を受け、NPO法人「崇仁まちづくりの会」により、まちづくりの新展開に関する実態調査が行われるなど、崇仁の新しいまちづくりに向け、積極的に取組を推進しておられます。

当区と致しましても、下京区基本計画に基づき、今後とも皆様と共に崇仁地域の、そして下京区のまちづくりに取り組んで参りますので、皆様の御協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

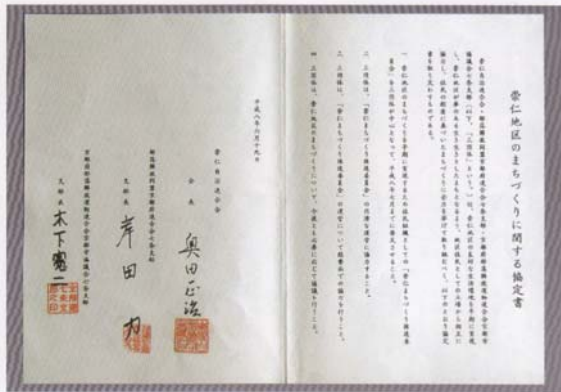
「崇仁まちづくり推進委員会」の今後のますますの御発展を心から祈念致しまして、私のお祝いの言葉と致します。

京都市下京区長 岡本 晋

まちづくりの始まり

崇仁まちづくり推進委員会 会長 奥田 正 治

平成7年、崇仁自治連合会長に推された際に、私は、崇仁のまちの将来を考えたとき、一番にまちづくりを進めるべきとの認識を持ちました。両運動団体にこの考え方を御理解いただけたことにより、京都市とのパートナーシップによる新しいまちづくりが始まったのです。



崇仁地区のまちづくりに関する協定書

崇仁まちづくり推進委員会 事務局次長 菱田不二三

まちづくりのスローガンの一つに、「まちづくりは人づくり」があります。この10年人づくり、教育にも取り組んできました。夏まつりのきっかけも子ども行事からでした。砂もちに通じるピオトーブづくりの取組は、地元と行政、大人と子どもの協力を具現化しました。崇仁地区の教育は負けません。



崇仁地区のまちづくりに関する協定書 市役所提出



崇仁まちづくり推進委員会 設立総会

崇仁まちづくり推進委員会 事務局長 野々口正吾

まちづくりは住民合意が前提であり、住民が主体となって、どのようなまちを造るのが課題である。「崇仁まちづくり推進委員会」の結成は、当時の部落解放運動や京都市同和行政の在り方、崇仁学区住民が大きく変わり始めたきっかけとなったときでもある。



崇仁地区のまちづくりに関する協定書 調印式

崇仁まちづくり推進委員会 事務局次長 山内 政 夫

崇仁まちづくり推進委員会が発足し、多くの成果を挙げてきました。イデオロギーを越えた団結の結果です。これからはさらに飛躍し、地元のNPOが企画、建設、管理し、まちづくりを設計することが求められています。

元崇仁隣保館長 小川 猛

崇仁まちづくり推進委員会設立10周年、おめでとうございます。この10年間の御活躍、御奮闘については、春、夏の崇仁のまつりに寄せていただく度、まちづくりの着実な成果を目の前に見せていただき、感動致しております。私が隣保館におりました頃、まちづくりについて色々話をさせていただいたわけですが、中でも「崇仁は、昔から商売人のまちであった」という、奥田正治会長の言葉が今も忘れられません。現実、大きな事業を展開しておられる方が多くいらっしゃいますし、何よりも「商売」という営みの中で、崇仁学区住民の方々の、積極性、進取の気風が養われてきたのではないのでしょうか。

まちづくりの合言葉であった、「一周遅れのトップランナー」を目指して、崇仁の気風溢れたまちが実現することを、心よりお祈り申し上げます。

まちづくりの進展

新しい住民参加によるまちづくりの視点

アルバック 地域計画建築研究所 石本 幸良

平成8年7月に、崇仁まちづくり推進委員会の活動を支援するプランナーとして、崇仁地区とのお付き合いが始まりました。まちづくり運動の重層、蓄積した崇仁地区で、私の力量でどこまでお手伝いできるか不安を感じましたが、最初は委員会の方とそれこそ連日連夜の意見交換や、ワークショップ方式による意見集約を実施しました。

平成8年12月末に発行した「みんなが主役のまちづくり」は、僅か4ヶ月足らずの取組のまとめでしたが、以後の崇仁地区のまちづくり方針の原点となっています。以後、推進委員会を中心に「崇仁版『参加のはしご』」を一步步実現され、今日の「目に見えるまちの発展」につながっています。

今後みんながまちを育て、持続可能な自立したコミュニティづくりにゆっくりと前進されることを期待しております。

崇仁のまちづくり：ホップ、ステップ、ジャンプ

立命館大学教授 リム ボン

私は崇仁地区のまちづくり運動の歴史を過去20年の時間軸で、主として三段階に分けて考えている。第一は、柳原銀行を発見し、これを文化財とする取組過程を経て、崇仁まちづくり推進委員会が結成されるまでの段階である(ホップ)。第二は、崇仁まちづくり計画の策定に取り組み、まちづくり推進委員会をNPO崇仁まちづくりの会へと発展させ、住民主体のまちづくりの基盤を着実に固めてきたこの10年間である(ステップ)。これで崇仁のまちづくり運動はかなりの自信と確信を持てるようになった。そしていよいよジャンプの段階に突入しつつある。それは、NPO自らが具体的なプロジェクトを推進する事業主体となることだ。たとえば、定期借地権付分譲住宅の事業計画、組合結成、建設工事といった一連のプロセスを自らプロデュースしてみてもいいだろう。



崇仁タウンウォッチング



「崇仁まちづくり計画構想(案)」 要請行動



京都市に提出した崇仁まちづくり計画構想図

柳原銀行記念資料館特別展図録 1～16



崇仁の文化と歴史とまつり

崇仁夏まつり開催の意義と経過

崇仁まちづくり推進委員会 理事 辻 浦 厚

崇仁教育連絡会が始めた第3回「校庭キャンプ」が97年6月台風の接近で中止に。「中止は嫌や」の子どもたちの声、第1回まちづくり報告会やワークショップでの盛り上がり。御雛子も子ども神輿もできた。地蔵盆が寂しくなるなかで、学区全体でお祭りをして、一体感を高めたい。同年8月「崇仁の夏まつり」を各種団体などの協力で、盆踊り、模擬店、和太鼓で開催。翌年の船鉾復元で「春まつり」も。さらに、小学校と合同大運動会、文化祭へと発展。



新日吉神宮祭

崇仁まちづくり推進委員会 事務局次長 山内政夫

このまつりは、1839(天保10)年元銭座跡村の支配人源左衛門が、「一日限り、村内限り相廻り、決して他所へは持ち出さない」と新日吉神社と妙法院に願い書を出してから崇仁も参加できるようになり、豊富な資金力とその情熱により、船鉾(二基)、十二灯(ダンジリ)四基(夕顔、竹馬、巽、及び名称不詳)と、まつりとして盛大になった。しかし、戦後維持費の高騰や人口の減少で一時期の巡行が途絶えたが、住民の団結により平成の時代に蘇った。



崇仁文化祭「崇仁の文化とまつり」

崇仁まちづくり推進委員会 事務局次長 山内政夫

崇仁まちづくり推進委員会が地元三団体を中心に結成されてから、様々な分野において崇仁地区に新しい団結と取組が進められた。文化祭もそのうちのひとつで、隣保館事業のサークルにおいても、日常の努力の発表の場を積極的に提供しようと考えられて、1994(平成6)年に始められた。柔道、茶道、将棋、大正琴、切絵、東九条マダンなど、発表の場を得て、皆生き生きと活動されるようになった。



崇仁雛子に寄せて

崇仁まちづくり推進委員会 理事

崇仁御雛子会 指導員 藤本 静 信

長い間吹いていなかった御雛子の笛を久しぶりに手にしたのは、平成5年、当時自治連合会副会長であった同級生の奥田正治との軽い会話がきっかけでした。それが、「崇仁御雛子会」の結成、船鉾の復元、まつりの復活という怒涛の日々の前触れであるとはつゆ知らず、体に染み込んだ調べを一つ一つ蘇らせるために苦闘した日々が、今では懐かしく、夢のように思い起こされるとともに、崇仁のまちづくりの一端を担える喜びに感謝しています。



崇仁の教育の取組とビオトープ

高瀬川の流路変更とビオトープの取組の意義

崇仁まちづくり推進委員会 理事 池田 正 治

崇仁まちづくりの大きな懸案であった高瀬川の流路の変更が、住民の大きな願いを込めて承認されることとなった。この事実が、崇仁のまちの形を大きく変化させていくことになるであろうと思う。まちが今後どのように変わっていくかは、住民の意識改革と行政のサポートが本気かどうかにかかっている。地域と行政が本気になれば、時代を担う子どもたちにも誇れる素晴らしい取組ができる。崇仁まちづくりの中でも、子どもたちを巻き込んで作り上げた崇仁小学校に流れる高瀬川を利用したのビオトープづくりは、まさにその象徴的な取組であった。そこには、地域住民であることや行政マンであることの垣根を越えて、このまちを良いものにしたいという思いが一つになって、共に汗をかいてやり遂げた。このとき、みんなの笑顔に崇仁の未来に明るい希望の光が見えていた。



ビオトープの整備計画を策定していくなかで、子どもたちと共に、高瀬川の生態について、調査しました。



ビオトープの整備計画策定の際には、崇仁小学校の子どもたちも参加しました。そして、多くのワークショップを重ねました。子どもたちがビオトープの整備計画に参画することで、子どもと大人が一体となってまちづくりが進められました。



ビオトープを活かした取組の一つとして、稲の田植え、稲刈りがあります。毎年6月に、崇仁小学校の子どもたちが田植えを行い、毎年10月には稲刈りを行います。



ビオトープ完成図

躍動する崇仁



北部第四地区内初の住棟となる「塩小路高倉1棟(仮称)」が平成17年11月に完成しました。

この住棟には、18年4月に入居していただく予定であり、1階のコミュニティスペースには、復元された「崇仁船鉾」を設置します。



長期間にわたる事業の停滞を乗り越えて、「41棟」への入居が開始したのは平成13年度末のことであり、この住棟には、「楓のまち」という愛称が付けられました。

その後、高瀬川の付替えなど、崇仁の事業が大きく前進しました。

今後のまちづくりの方向性と課題

崇仁まちづくり推進委員会 理事 竹口 等

崇仁まちづくり推進委員会が、思想、信条、団体の違いを乗り越え、結成されてから十年を迎えようとしている。この間の目に見える主な成果は、この冊子に収められているが、これらの成果は、結成時の誓いである「徹底した論議」を原動力として推進されてきたことを忘れてはならない。これが、「まちづくりは人づくり」、「みんなが主役」のまちづくりというスローガンを掲げ、地元と行政の「パートナーシップ」によるまちづくりを、「共に汗をかき、痛みを分かち合いながら」実現してきたエネルギー源であった。その点で、当初の目標の一つは、「一応達成できた」と自負したい。

一方で、結成時の危機的背景となった事業の遅れや少子高齢化、人口流出という現状は、なおもって加速度的に進行していて、残念ながらまだ食い止めるには至っていない。この厳しい現状は、改良住宅などの物的施設の建設というタテ軸と共に支え合い安心できる生活作りというヨコ軸との間にある「家賃」「営業」「福祉」「住宅の多様性」「戻り入居」「外部施設導入」「教育支援」などの座標となつて、私たちの前に立ちはだかつて、これらの座標が「青年や壮年層の定着と人口増加」に向かつて、一つに集約化されて行くかどうか、これが次の十年に問われている。明日に向かって胸を張って生きていく子ども、差別の中で精一杯生きてきた高齢者、これらの人々を支える青年や壮年が夢を育み、暮らしの中核になるまち「崇仁」にしていかなければならない。そしてこの座標は、単に崇仁地区にとどまることなく、京都市の人權、同和行政の座標であり、また駅前再開発や京都市全体のまちづくりと連動している。崇仁の人、まちは、私たちの共有財産であるとともに、京都市の共有財産でもある。この大事業を推進していくためにも、住民と行政がこれまで以上に知恵と力を出し合い、しんどくとも爽やかな汗をかかなくては行けない。関係各位の以前にも増しての御協力と御尽力をお願い申し上げます。



現地で建替える屋形町ブロックについては、入居予定の皆様、新棟の計画だけでなく、仮住まい先についても意見交換を重ねていただきました。

現在、建設に向けての準備が進められています。



崇仁地区で最初の建替えとなる東之町・西之町ブロックの「M1棟(南部新1棟)」について、入居予定の皆様の参加により計画を取りまとめてきました。

この計画に基づき、平成17年12月の完成に向けて工事が着実に進められています。

まちづくり10年間の歩み

平成8年

6月19日：「崇仁地区のまちづくりに関する協定書」調印式
及び同協定書の京都市提出

7月 1日：崇仁まちづくり推進委員会設立総会

11月21日：崇仁まちづくり推進委員会「グループディスカッション」実施

11月22日：「空から崇仁ウォッチング」実施

12月26日：冊子「みんなが主役のまちづくり」発表

平成9年

2月11日：崇仁タウンウォッチング「思い出探検隊」実施

2月23日：まちづくりビジョンゲーム実施

4月 6日：ひかり公園竣工式

8月27日：建設省要望行動

11月28日：柳原銀行記念資料館開館

11月29日：「崇仁まちづくり計画構想(案)」発表

12月 4日：「崇仁まちづくり計画構想(案)」を京都市に提出、
併せて要望行動

平成10年

3月26日：崇仁まちづくり推進委員会「まちづくり計画構想策定
記念レセプション」開催

4月18日：西濱組船鉾お披露目

6月 3日：総務庁視察

6月22日：増田副市長表敬訪問

6月23日：崇仁御雛子会市民憲章表彰記念式典

8月7日、8日：崇仁曳山復元お披露目

平成11年

6月 4日：「京都市崇仁まちづくり計画」伝達式、報告
「第2回空から崇仁ウォッチング」開催

8月20日：「京都市崇仁まちづくり計画」パンフレット発行

9月22日：高瀬川整備事業地鎮祭及び起工式

11月12日：9棟エレベータ設置工事完了、乗り初め式

この十年を振り返って

崇仁まちづくり推進委員会 事務局長

野々口 正吾

この十年の間、色々な人に出会いました。
色々な場所にも研修や見学に行き、参考に
もなっています。そしてやっとここまでできま
した。

しかしながら私たちの目指すまちづくり
はまだまだです。まずは住居や周辺整備な
どですが、始まったばかりです。私たちの望
む計画ができて、国や市の協力なしでは
実現出来ません。毎週木曜日に「まちづくり」
の会議を行い、地元の声として私たちが「い
つまでも安心して住み続けられるまちづくり」
の在り方について検討してきました。そし
て建物や施設ができて、住民がまちを守
り育てていく力が問われています。子ども
や青年達や地域に住むお年寄りの皆さんが、
毎日を楽しく過ごせるようなまちづくり、
この地に生まれ育つことに誇りを持つこ
とができるようにするには、私たちの思い
をどういった形で引き継いでいくのが、今
後の課題です。

私たちは多くの住民の方々ともお会いし
ました。中には反対意見もありましたが、
途中から賛同を得て積極的に参加されて
いる方もいらっしゃいます。地域の皆さんと
一緒になってまちづくりを進めてきたなかで、
先が少しづつ見えてくるようになってきて
います。が、まちづくり事業はもう少し時間
が掛かります。ここまではまちづくりの基
礎にすぎません。今後の計画をより具
体化させ、実現させていくために皆様の御
協力をお願いします。

平成12年

5月27日：4棟建設工事地鎮祭及び起工式

平成13年

6月30日：崇仁まちづくり推進委員会5周年記念イベン
ト開催

7月 1日：「一みんなが主役の崇仁のまちづくり-進めよう
まちづくり広げよう崇仁の輪」パンフレット発行

11月17日：4棟「楓のまち」竣工式

平成14年

1月24日：高瀬川付替え工事の完成

3月16日：崇仁小学校ビオトープ完成式典

5月11日：高瀬川整備事業竣工式

7月15日：「特定非営利活動法人崇仁まちづくりの会」
設立認証

10月29日：「京都市崇仁まちづくり計画」推進懇談会開催

平成15年

2月20日：8棟エレベーター設置工事完了

8月 末日：碇組船鉾完成

10月19日：崇仁小学校創立130周年記念式典

11月23日：「どうする京都21 崇仁地区のまちづくり」放映

12月14日：第2回景観・まちづくりコンクール表彰式
(優秀賞受賞)

平成16年

2月12日：NHK「難問解決!ご近所の底力」で、崇仁の防火
活動について放映

2月14日：崇仁市営住宅塩小路高倉第1棟(仮称)新築工
事起工式及び地鎮祭

3月20日：平成15年度京都水宣言記念京都水づくり賞受賞

6月18日：平成16年度京都府環境保全功労者表彰受賞

7月15日：南部新1棟(仮称)新築工事起工式及び地鎮祭

平成17年

2月17日：国土交通省及び内閣官房都市再生本部への要
望活動

3月17日：24棟エレベータ設置工事完了及び供用開始

11月15日：塩小路高倉1棟竣工

12月19日：M1棟(南部新1棟)竣工